

## 「チャラビ氏関連記事から伺えるもの」

松野友美(宇都宮大学国際学部国際社会学科1年)

アメリカのネオコンと深くかかわりを持っており、亡命イラク人組織(INC)の議長をつとめていた人物、アハメド・チャラビ氏にスポットを当ててみる事にした。彼は、ネオコンとの深い繋がりから、暫定政権のトップに据えようと米側が考えていたことのある人物でもある。なぜ、このような人物がアメリカと対決するような立場へと移行していったのか。様々な視点を含め、この問題を捉えてみたい。

### 1. チャラビが問われている容疑

ヨルダン詐欺事件、大量破壊兵器に関する偽情報、イランへの情報提供疑惑などが上げられている。ここでは、後ろの2つの件からせまっていく。

### 2. アメリカの汚さ

(1) まずは、アメリカが大量破壊兵器の存在の情報を、チャラビ等亡命者から得ていた点について考えたい。この情報は、アメリカがイラク戦争に踏み切る口実となった大変重要な情報である。そんな重みのある情報を、イラクからの亡命者であるチャラビの証言だけを頼りにするのはおかしくないか。パウエル長官の発言は、「CIAは不正確な情報(反フセイン亡命グループ、イラク国民会議の亡命技術者が捏造した情報)によって、ミスリードされていた」というのである。元来亡命者と言うのは、亡命先の国に都合のよい情報を流すことがしばしばあるものである。それなのに、アメリカが単にチャラビ等からの情報だけで戦争に踏み切ったと言うのなら、それは、アメリカが馬鹿なだけである。まずありえない話だろう。東洋学園大学教授の持田直武氏も「偽情報を流したのは、亡命グループだけだったとは思えない。CIAが『だまされた』という完全な被害者の立場にあったとは思えない。」と同氏のホームページ上(<http://www.mochida.net/>)で語っている。仮に、大量破壊兵器に関する情報源が、チャラビ等亡命者に頼らなければならないほど困難を極めていたのなら、もっと慎重に調査を進めなければいけなかったのである。ここにまずアメリカの、事の後から説明をつける姿勢が読みとれる。そして、そんなアメリカの姿勢を知りながらも黙認してしまった私たちは、アメリカの汚いやり方を容認しているのではないだろうか。目的は何であれ、アメリカは戦争をはじめたかったということが伺える。

(2) また、イランへの情報提供疑惑についてもアメリカの怪しさがにじんでいる。チャラビは、アメリカがイランの暗号を解読し、情報を盗んでいるとイラン側に漏洩した疑惑が向けられているが、本人ははっきり否定している。チャラビ自身やINCのメンバーがイラン政府当局者と接触した事は認めたが、米政府から機密情報を受け取ったことは一切ないと述べている。逆にこの一連の疑惑については、CIAのテネット長官が流していると名

指して非難する有様である。また、イラク工業投資銀行のアルルベイ頭取も、「米国がチャラビ氏を陥れるための策略だ」と述べている。どちらが本当かは決めかねない。しかし、日本経済新聞によると、「チャラビに米の機密情報を漏らした米当局者は、酔っていた」という。酔った状態でチャラビと接触するくらい仲の良い人物なのか、アメリカお得意の言い訳なのか、この情報自体あやふやなのかもわからないが、とにかくはっきりしない。過去の事実すら解明されても公にされないことが多い世の中である。この程度は問題にならないのであろうか。

### 3．石油食糧交換プログラム

チャラビがアメリカの不興を買うようになった理由の一つに、米国が後押しする、国連による暫定政権構想造りにチャラビが反対し、国連の「石油食糧交換プログラム」をめぐる不正疑惑を独自調査していたことが挙げられている。極東ブログと言うホームページ（[http://finalvent.cocolog-nifty.com/foreastblog/2004/04/post\\_6.html](http://finalvent.cocolog-nifty.com/foreastblog/2004/04/post_6.html)）によると、このプログラムの運営は国連が管理しているが、実際にはフセイン政権が輸出先を決定していたと言う。そして、そこから石油輸入を目指した各国が、同政権に接近し様々な収賄疑惑が見られたのだと言う。また、この収賄疑惑にアメリカがどのように噛んでいるのかははっきりしないが、産経新聞によるとイラク駐留軍とイラク警察が、イラク国民会議の事務所を自宅捜査した際に、石油食糧交換プログラムをめぐる不正事件に関する書類やコンピューターなどが押収された、とチャラビが明らかにしていると報じている。

確固たる根拠はないが、アメリカにとってチャラビは邪魔な存在になったのだろう。

### 4．まとめ

陰謀論や米国内の派閥による問題なども取りざたされているが、やはり石油が大きく関連してイラク戦争が引き起こされたのだと思う。表面としては、まあもっともらしい言い訳で取りつくられているが、裏では公にできないレベルで物事が進んでいる。私たち一般人が事実を解明していくのは困難であるし、もしかしたら、裏での動きがあるからこそ世界は都合よく動いているのかもしれない。また、裏で動きがあることを私たちが暗黙の了解で許してしまっているからこそ、その行動が取れるのかもしれない。自国の利益を求めるからこそ公にできないのだろうが、裏で動くにしても良い方向に向かうようにしてほしい。